



ユークン

石川県社会福祉協議会
ボランティア活動振興基金
シンボル・キャラクター

特集

施設でのボランティア受け入れ 再スタートに向けて

ボランティア探訪

社協の取り組み

小学生から地域共生社会について学ぶ

ジュニアボランティア講座

～輪島市社会福祉協議会～

毎年、夏休みと冬休みの年2回、市内の各地区を交代でジュニアボランティア講座を開催しています。

この講座は、講師として、地域でボランティア活動をされている方や介護施設職員、障害のある当事者の方を招き、自分たちの住んでいる町ではどのような困りごとがあるのかを知り、それを「我が事」として考えることの大切さを伝えていきます。

令和4年度は三井地区の児童クラブの12名を対象に開催しました。冬休み中に開催した「楽しく手話を学びましょう」では、聴覚に障害のある講師から、外出先で不安な時に「何かお困りですか」「お手伝いしましょうか」と気にかけてくれることが、うれしいというお話をいただきました。

当日は、講師からのお話の後、参加した児童たちが手話での挨拶の仕方や自分の名前をどう表現するかを学び、お互いに手話で自己紹介をしていました。

障害のある当事者の方から直接お話を聞くことで、自分たちが気づかないようなところで不安を感じていたり、何気ない声かけが助けになることを知り、地域で共に暮らすためには、その人の立場になって考え、行動することの大切さを学ぶ機会になったのではないかと思います。



企業の取り組み

車いす寄贈の取り組み

ティ・アイ・エス株式会社

2019年の創業20周年を機に「より地域貢献を」の思いで、ななる生命保険会社様と一緒に車いす寄贈の取り組みを始め、この4月に石川県社会福祉協議会様を通じて、高齢者施設3ヶ所に車いす3台を寄贈致しました。

また同時期に、ロシアのウクライナ侵攻によって障害を負った人たちが、高齢者らの移動手段としての車いすが不足しているのとことから、ウクライナにも3台寄贈致しました。

当社の他の取り組みとしては『公益財団法人交通遺児育英会』のあしながおじさん奨学金制度への支援や、ペットボトルキャップ回収を通じて世界にワクチンを届ける取り組みなども行っています。

『かかわる方々、みんなハッピー』でありたい『地域をより豊かにする』などの当社の理念実現に向けて、今後もさまざまな社会貢献活動に取り組んでまいります。



施設でのボランティア受け入れ 再スタートに向けて

関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授 南 多恵子

数あるボランティア活動の中でもとりわけ施設ボランティアは、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた活動の一つでしょう。職員にとって利用者の生命を守ることが第一であり、ご家族との面会すら制限がある中で、ボランティアの受け入れは困難でした。

ですが、新型コロナウイルス感染症の位置づけは令和5年5月8日から「5類感染症」となり、施設ボランティアも少しずつかつての姿を取り戻しつつあります。筆者の知る施設でも、ボランティアの受け入れや地域との交流が再開しつつあり、ようやく施設ボランティア復活の兆しが見えてきました。しかしながら、

感染の広がりが心配な昨今です。まだまだ緊張感を持って活動しなければならぬことは変わりませんが、

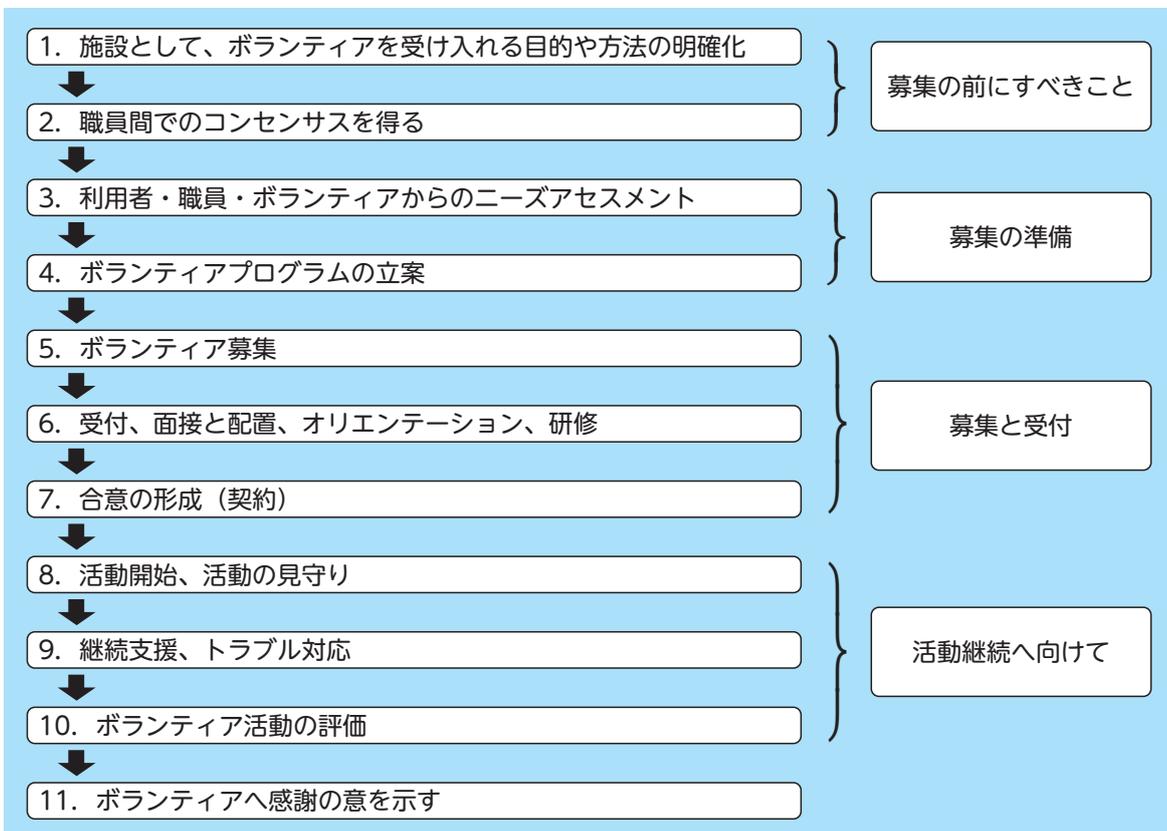
ここでは、施設ボランティア受け入れの再スタートに向けた留意点をまとめてみたいと思います。

1. 「ボランティアマネジメント」を点検してみる

コロナ禍によって、人と人との繋がり場であった施設ボランティアが停滞し、さまざまな地域活動が閉じてしまうという難しい状況が生まれました。いったんストップしていたことを再スタートさせるにはエネルギーが要ります。また、ボランティアのいない日常が当たり前になっていた期間が長く続くと、職員の意識や受け入れ態勢にも変化があるかもしれません。

ボランティアの持つ強みを引き出し、弱みをカバーし、利用者、職員と調和しながらより良い実践を創り

図1 ボランティア・マネジメントのプロセス



出していくためには、ボランティアマネジメントを機能させることが必要です。そこで、再スタートに向け

た準備として、施設のボランティアマネジメントの状態を一度点検してみてもいいでしょう。

筒井のり子編著（1998）『施設ボランティアコーディネーター』大阪ボランティア協会発行を参考に筆者作成

ボランティアを多く受け入れ、豊かな実践を生み出している施設に話を聴くと、ボランティア受け入れの目的を明確化し、そのことを職員間で理解し、受け入れに合意がありません。また、兼務であれボランティア受け入れのための相談窓口を整え、現場職員もボランティアへの対応をすることも業務のうちと心得ており、職員、ボランティア向けのハンドブックやマニュアル、各種カード類などが揃っています。オリエンテーションや研修等も行い、活動希望者を丁寧に施設現場に繋げ、継続のためのフォローも行っています。

そのことをボランティア担当者が孤軍奮闘するのではなく、施設として法人として、推し進めています。こうした基盤づくりは、1人の担当者が取り組むのは難しく、法人、施設の理解が欠かせません。

図1は、ボランティアアマネジメントのプロセスです。まずは、感染リスクを考慮しながらも、再開できるとすればどのような活動なら可能なのかを確認してみましよう。利用者や職員、ボランティア、地域の皆さんが心待ちにしていた活動です。安心して活動できる基盤を整え、で

きるところから徐々に広げていきたいと思います。

2. ボランティアの皆さんへのフォロー

コロナ禍でボランティア活動がストップしている間、ボランティアや地域の皆さんたちの状況にも変化があるのは当然かもしれません。地域ボランティアの高齢化は全国的な課題といわれていますが、再開を待たずして、そのまま活動を辞めることになってしまったというエピソードを耳にすることがあります。長年支えてくださったボランティアや地域の皆さんたちとの繋がりは、どうなっているでしょうか。連絡が途絶えているうちに、そのまま繋がりが消えてしまうのはお互いにとって寂しいですね。施設ボランティアは、地域と施設の架け橋ともいえる大切な地域住民の皆さんです。関係の再構築に向けたフォローもしていましよう。

3. 地域志向の取り組み 視野に

利用者と地域の重要な接点であったボランティア活動が途絶え、再ス

タートはしたいものの、感染の波は完全に収まっていないのも現実です。以前のように施設内での活動を活性化させるには時期尚早という感もありません。そのため、施設内にとどまらず地域志向の取り組みを視野に置くことも一案ではないでしょうか。

社会福祉法人による地域における公益的な取り組みは責務であり（社会福祉法第24条第2項）、地域の福祉ニーズ等を踏まえつつ、法人の自主性、創意工夫による多様な地域貢献活動が既に行われています。ボランティアと施設はより良い利用者支援、より良い地域づくりに向けたパートナーです。地域福祉推進が叫ばれるこの時代、ボランティアと共に豊かな実践が施設内外で花開くよう期待したいです。

コロナ禍は施設ボランティアへも壊滅的な影響をもたらしました。しかし、5類感染症となった今、利用者や職員と地域の皆さんとのつながりの維持や再構築を探るタイミングでもあるでしょう。リスク管理は意識しながらも、施設と地域を結ぶ施設ボランティアの架け橋が再び数多くかかりますよう願っています。

引用参考文献

筒井のり子編著（1998）『施設ボランティアコーディネーター』大阪ボランティア協会
「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク（T-ten）（2022）『withコロナ2つながらをあきらめない、繋がりが続けるための私たちの工夫』住民主体の地域活動再開のヒント集〜JCLC



ボランティアネットにユーザー登録されている 福祉施設・団体の皆様へ

掲載中のボランティア募集情報 更新のお願い

日頃より、ボランティアネットをご利用いただきありがとうございます。ボランティアネットでは、最新のボランティア情報を県民の皆様にお届けできるよう努めています。情報を掲載いただいている施設・団体の皆様には、お手数をおかけいたしますが、下記の【確認方法】により、情報の修正・削除がないかご確認をお願いします。



確認方法

手順①	「施設者管理画面」(https://www.isk-shakyo.or.jp/vm-admin/)よりログイン ※施設者管理画面ログインにはユーザー名・パスワードが必要です。ユーザー名・パスワードをお忘れの場合は、石川県社協ボランティアセンター（ページ下部記載）までご連絡ください。		
手順②	ボランティア募集管理の「募集一覧」をクリック		
手順③	「表示状態」の「掲載中の募集のみ表示」にチェックし検索		
手順④	表示された情報の「詳細」をクリックし内容を確認。		
手順⑤	【削除する場合】 県社協ボランティアセンターまで連絡（本会で削除させていただきます）。	【募集情報を新規登録する場合】 「追加」または「引用」ボタンより、情報を入力し、登録する。（本会で登録内容を確認し、承認したあと、ボランティアネットへ掲載いたします）	【掲載情報を修正する場合】 ①「詳細」ボタンより、掲載中の情報を印刷し、修正を書き込みした上で、県社協ボランティアセンターへFAX ②県社協ボランティアセンターへ電話連絡

集めています！

使用済みインクカートリッジ・使用済み切手・書き損じハガキは、福祉施設の整備費や、開発途上国の医療援助など、国内・国外のさまざまな活動のために役立てられています。

◆使用済みインクカートリッジの流れ

キャノン(Canon)、エプソン(EPSON)など 全インクプリンター用の使用済みインクジェットカートリッジ

業者に買い取ってもらい、その収益を「石川県社会福祉協議会ボランティア活動振興基金」に積立てています。基金の運用益で県内のボランティア団体への活動機材購入の助成等を行っています。

◆使用済み切手の流れ

みなさんの協力で集まった使用済み切手を収集団体へ送付します



◆書き損じハガキの流れ

みなさんの協力で集まった書き損じハガキを郵便局へ持っていきます



新しい切手等に交換してもらい、県内の福祉施設・団体に寄贈し、活用していただきます。

“ちりも積もれば山となる”
 のような地道な活動ですが、みんなで収集活動を行えばきっとたくさんの枚数になります！

～ボランティアネットをご利用ください～

ボランティア募集情報、ボランティアイベント情報、助成情報等、各種ボランティア情報をご覧いただくことができます。

URL : <http://isk-shakyo.or.jp/volunteer/>

ふれあいネットワーク

発行／ 社会福祉法人 石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒920-8557 金沢市本多町3丁目1番地10号
 ☎(076)234-1616 FAX(076)222-8900
 E-mail : ivc@isk-shakyo.or.jp URL : <http://isk-shakyo.or.jp/volunteer/>

ボランティア活動振興基金のシンボル・キャラクター「ユーくん」です。

生まれは、昭和60年3月29日、この日に新聞広告で県民の皆さんに発表されました。
 生みの親は、当時金沢美術工芸大学の学生さんにボランティアで制作していただき、名付け親は、新聞等で公募しました。
 優しさ、勇気、友達の「ユー」です。

